

小学生の食育活動



育てたお米を試食する児童

農家が育てたお米と食べ比べ

～バケツ稲で育てたお米を試食～

平川市立金田小学校の5年生46人は12月11日、自分たちが栽培した青天の霹靂の試食を行った。市販されている青天の霹靂（へきれき）と食べ比べ、味や食感の違いを確認した。同校では、食農教育事業の一環として年間を通してバケツ稲の観察を行っている。5月に青天の霹靂（へきれき）の8本の稲をバケツに植え、栽培暦を確認し管理を行い、成長した稲の刈取りを10月に行った。

試食をした児童は「自分で育てたお米もおいしいけど、農家さんが作ったお米の方が味も食感も良かった」と話した。

みんなで力を合わせて「よいしょ」

～育てたもち米でもちつき体験～

黒石市立東英小学校の5年生11人は12月18日、自分たちが栽培したもち米で餅つきを体験した。同校では、稲の成長や米作りの過程を学ぶため、毎年農作業体験を行っている。JA津軽みらい女性部黒石支部や地元農家が、餅つきに協力した。児童らは杵で力いっぱい餅をつき、ついた餅を手作業で形を整えた。餅は女性部員が調理し、きなこ餅や胡麻餅などにして全校の児童に振る舞われた。

餅つきを体験した児童は「杵が重くてつくのが大変だった。みんなで頑張ったので、おいしいお餅になったと思う」と笑顔で話した。



餅つきを体験する児童

りんごの消費拡大に向けたPR活動

～全国各地へりんごを寄贈～

当JAでは、りんごの消費拡大に向けたPR活動として、全国各地の青果会社を通じて、自治体・小学校・保育園などにりんごを寄贈している。

組合長、常務らが東京都や九州地方を訪問。りんごをもらった子どもらは笑顔でいっぱいだった。

りんご消費に感謝の気持ちを込め、今後も消費拡大へ向けてPRを展開していく。



東京都の保育園



全国から届いたお礼の手紙

